

## マルコの福音書 5 章 21-43 節 救われたふたりの娘

マルコの福音書に書かれた癒しについてはこれまでもいくつか見てきましたが、今日も、癒しについての大変興味深い記述を読んでいきます。1つのお値段で2つ買えるような感じです。癒しと信仰に関する2つの出来事が、完結した1つの話の中に組み込まれているからです。マルコの福音書 5 章 21~43 節では、ふたりの娘についての出来事が一つの話の中に組み込まれています。この人たちは別々の女性ですが、彼女たちのそれぞれの父親によって愛され、そして彼女たちの主によって癒されます。これまでの出来事を思い出してみますと、イエスと弟子たちはガリラヤ湖を渡り、嵐に会い、イエスは、この湖の上での嵐を静め、また、ゲラサ人の地にて、悪霊にとりつかれた男の人生の嵐も静めました。そして、イエスと弟子たちは再び舟に乗り、おそらくカペナウムの方に戻ったと思われます。では、マルコの福音書 5 章 21 節から読んでいきましょう。<sup>21</sup> イエスが再び舟で向こう岸に渡られると、大勢の群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。<sup>22</sup> すると、会堂司の一人でヤイロという人が来て、イエスを見るとその足もとにひれ伏して、<sup>23</sup> こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」<sup>24</sup> そこで、イエスはヤイロと一緒に行かれた。ここで一旦止まりましょう。

会堂司は、ユダヤ教の専門的な律法学者や訓練を受けた教師ではなく、会堂の全般的な監督を担い、教えられていることが教義的に正しいかを確認する平信徒、一般の信徒でした。ですから、このヤイロという男性は、当地のユダヤ教の集まりにおいて、平信徒の長老、または執事にあたるような存在と考えることができます。このような人物は、会堂での様々な行事を司ることに慣れていたと思われます。しかしこの話の場面では、彼は力や権威を示すような状態にありません。ヤイロは、死にかけた娘を前に、自分も必死なのです。礼儀だとか体面を保つといったことを気にしている場合ではありません。彼は、イエスが人を癒すことができると聞いており、この方に、娘が死ぬ前に来て癒してほしいと懇願しています。彼は、イエスを信じていますが、この後わかるとおり、彼の信仰はある点で限られています。ヤイロは、イエスの力を信じていますが、その力がイエスが物理的にいる場所に限られると考えている点で、完全に信じているわけではないと言えます。イエスがその手を娘の上において初めて、娘を癒すことができているのです。言葉だけで癒すことはできず、イエスが実際にそこにいなければならないと考えています。イエスはここで、ご自分の力がどれほどであるかについて、ヤイロの誤解を正そうとせず、彼の言うとおりに一緒に行きました。そして後ほど見るように、ヤイロは、イエスの力を目の前で示され、これによりイエスを信じることになります。第 24 節の後半から読みましょう。

すると大勢の群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。<sup>25</sup> そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人がいた。<sup>26</sup> 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のこいもなく、むしろもっと悪くなっていた。<sup>27</sup> 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやってくる、うしろからイエスの衣に触れた。<sup>28</sup> 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。<sup>29</sup> すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。<sup>30</sup> イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」<sup>31</sup> すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」<sup>32</sup> しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。<sup>33</sup> 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。<sup>34</sup> イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」ここで出てくる女性に、イエスがどう声をかけているかに注目しましょう。「娘よ」と呼んでいます。この女性は、だれからも拒絶されていました。詳細については触れませんが、このように、医療的に治すことができない出血が続いているということは、旧約聖書の律法の観点から、彼女は一生、汚れた者と見なされていることになります。実に、29 節に「病気が癒やされた」とありますが、ここで「病気」という語には、身体的な痛みだけで

なく、この疾病に伴う恥も含まれています。この女性の場合、この病気を持ちながら明らかに生きてはいましたが、死にかけている娘とほとんど同じ境遇にありました。この女性は、すべてを失っています。26節からわかるとおり、医者たちは彼女のお金をすべて使わせ、病気を治療するどころか、もっとつらい思いをさせました。ヤイロのように、彼女も、イエスから癒しを受けるためには、社会のルールや、彼女につきまとう汚名といったものを気にしていません。律法に基づけば、彼女はその病気のため、だれにも触れることが許されていませんでした。しかし彼女はイエスにより癒されるため、信じて手を伸ばし、イエスが来ていた衣服に触れます。

イエスはご自分が触られたことに気づいており、だれが触ったのかを知ろうとしています。イエスは大勢の群衆に囲まれていたので、だれが触れたのかどうしてわかるのでしょうか、と弟子たちは苛立ちます。しかしイエスは、ご自分が癒しを与える人と、ひとりの人として直接対面することを求めています。女性は何か（物事）を求めていましたが、イエスは、誰か（人）を知ることが求めていました。彼女は、イエスが人間を超えた存在であり、身体的な癒しをはるかに超えるものを与えてくださる方だと知り、自ら前を出て、イエスの前にへりくだります。これは、イエスの弟子の真の印です。イエスは、どのように応じたのでしょうか。この女性は既に癒されています。身体的には、イエスのおかげで、彼女は大人としての人生の中でこれまでになく健康になっていたと思います。しかしイエスはそれでも、彼女にこう言いました。**娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。**もちろん、イエスの言葉を聞いて、誰もが表面的に理解したのは身体的な癒しのことでしたが、この女性がその内面で体験したことは、彼女の魂をつらぬく、霊的な癒しでした。イエスが、**あなたの信仰があなたを救ったのです**……。と言われたとき、この救うという言葉は癒すという意味もあり、新約聖書では主に、罪からの霊的な救いという意味で使われています。この女性は、イエス・キリストへの信仰によって、霊的に救われたのです。そして彼女は、真にイエスの弟子となりました。このマルコの福音書においてほかの弟子たちの例から見てきたように、真の弟子であることの印は、ただイエスの近くにいることではなく、彼の言葉を聞くことだけでもなく、イエスから聞いた言葉に基づいて行動することでした。この女性は、27節で、イエスのことを「聞き」ました。そして、聞いたことに応じて、彼女はやって来て、イエスに触れたのです。この、イエスへの信仰による行動が、彼女に永遠の救いをもたらしました。イエスのことを聞き、信仰をもって応答する—そして、この信仰は、従順な行動を伴う—これが、イエスの弟子の姿です。

この女性の癒しの話は、ヤイロの娘の話に適当に混ぜて語られているではありません。むしろ、この女性こそが全体の出来事を中心人物であり、彼女は、ヤイロの信仰の見本となったのです。ヤイロは、娘が癒されるには、イエスが自分の家に来て、娘に触れなければならないと思っていました。しかし彼はいまこの女性が完全に癒されたのを目撃しました。この女性は、イエスに対して癒しを求める立場にもなく、イエスに対して癒してほしいと頼んだこともありませんが、イエスを信じていました。彼女は、ヤイロの前で自分の癒しと信仰の証しをし、「**真実をすべて**」話しました。これを、ヤイロは聞き、自分の目でも見ました。ヤイロには、この体験が必要でした。なぜなら彼の信仰が最大限に試される時が来ていたからです。35節を見てみましょう。<sup>35</sup> **イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩わすことがあるでしょうか。」**ここでイエスがヤイロに与えている試練は、イエスに出会う者すべてが直面する試練であります。人間としての経験から考えて可能であることだけを信じるのですか。それとも、どんなことでも可能とする、神を信じますか。ヤイロよ、あなたの娘は死にました。この絶望的な展開のほうに目をやり、脅えてしまうのですか。それとも、信じて手を伸ばし、自分の衣服に触れた女性を癒すのをその目で見た、イエスを信じますか。ヤイロがどう答えたかは話の最後まで書かれていませんが、イエスの行動から、彼らはヤイロの家に向かって移動を続けたこと、つまりヤイロはイエスを信じたことがわかります。

37 節から続けて見ていきましょう。<sup>36</sup> イエスはその話をそばで聞き、会堂司に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」<sup>37</sup> イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分と一緒に行くのをお許しにならなかった。<sup>38</sup> 彼らは会堂司の家に着いた。イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているのを見て、<sup>39</sup> 中に入って、彼らにこう言われた。「どうして取り乱したり、泣いたりしているのですか。その子は死んだのではありません。眠っているのです。」<sup>40</sup> 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子どもの父と母と、ご自分の供の者たちだけを連れて、その子のいるところに入って行かれた。<sup>41</sup> そして、子どもの手を取って言われた。「タリタ、クム。」訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。<sup>42</sup> すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。<sup>43</sup> イエスは、このことをだれにも知らせないようにと厳しくお命じになり、また、少女に食べ物を与えるように言われた。この奇跡は、すべての人に示されたものではありませんでした。最もイエスに近かった弟子であるペテロ、ヤコブ、ヨハネと、娘の母親と父親だけが、この奇跡を直接体験しました。そして、それはまさしく奇跡でした。ここでイエスが「その子は死んだのではありません。眠っているのです.....」と言われていますが、娘が本当は死んでいなかった、という意味だと思っははいけません。取り乱したり泣いたりしている人たちについて書かれていることから、そこに死んだ人がいて、葬儀の際にお金を払って雇われ、泣くことを専門にしていた人たちが既に来ていたことがわかります。この人たちは、当時のユダヤ人の葬儀には欠かせない役割を果たしていましたが、死亡が確認された場合のみ、呼ばれたはずで。しかしイエスは、その時の状況ではなく、イエスによって可能となること、これから起ころうとする真の状況を見ていました。その場にいた人たちに見えていたのは、物理的な現実だけです。神の存在によって、あらゆる状況においてどんなことでも可能である、このことが見えていませんでした。人間としてはもう手の打ちようがない死の状況に介入なさったのは、この娘をお造りになった方、波風を止め、悪霊を逃げ去らせ、女性の長血を止めた、天と地の神です。完全にこのような神であられ、完全に人間でもあられるイエスが、少女のいるところに入っていき、「タリタ、クム.....」と言いました。これはアラム語で、文字どおりに訳すと、「小さな子羊よ、起きなさい!」というような意味です。イエスが手を取って、その口から言葉を発すると、少女はすっかり癒された状態で、死からよみがえりました。少女の一部のみが癒されたわけではありません。完治していました。少女の体のあらゆる部分が機能し、起き上がってすぐに食べ物を食べることができました。

この出来事において、聖霊は、マルコを通して私たちに、このふたりの娘に注目するよう促しています。ひとりの娘は年配であったと思われ、もうひとりの娘は少女でしたが、ふたりとも女性です。ということは、当時の社会における人々の価値という意味では、彼女たちはよくて二級市民でした。ここに、この出来事から学び、皆さんが自分自身に適用してもらいたいことの一点目があります。いまこの場にいらっしゃる女性に向けてのメッセージという形でお伝えしたいと思います。あなたたちは、イエスにとって、劣った存在ではない。このことを、マルコの福音書に記されたこの話から覚えておいてください。これまでの人の歴史を通して、女性は二級市民として扱われてきました。また、今日の日本社会やほかの社会の多くの側面においても同じです。夫は、キリストがご自分のものである教会に関わるように妻に関わるどころか、妻を所有物として扱ってきました。しかしイエスにとって、あなたたちは神の尊い娘です。あなたが、イエスの衣に触れた女性のように年を重ねても、あるはヤイロの娘のように若くても、あなたたちは天の父から愛されている尊い存在なのです。皆さんの中には、父親というと、愛をもって育ててもらったという思い出ではなく、虐待、遠く離れた存在、怒り、といった記憶が残っている、という人も多いかもしれません。しかし神は、私たち誰もが望んでいるけれども、多くの人々が持つことのできない、その父親なのです。神はあなたを愛し、大事に気にかけて、イエスの衣に触れた女性のように、あなたと個人的に出会いあなたを知ることが望んでおられます。そして、「タリタ、クム.....」とおっしゃったときのような、慰め深い言葉であなたに語りかけることを望んでおられます。

ふたりの娘について注目しましたが、もうひとつ、女性とヤイロの応答について、私たちに適用すべき点があります。信仰に重点が置かれていることです。これは私たちに、十分な信仰さえあれば、誰でも癒しが受けられる、と伝えているのではありません。イエスに関するこの種の出来事を、多くの人はそのように解釈します。しかし、ふたりの娘はいずれも、最後には死ぬこととなります。この意味で、彼女たちが受けた身体的な癒しは、一時的なものでした。さて、女性が登場するという点以外に、2つの出来事を結びつけることがもう一点あります。ヤイロも病気の女性も、イエス以外に望みがない、絶望的な状況にありました。そして解決への唯一の道は、イエスを信じることでした。イエスがヤイロに「**恐れなくて、ただ信じていなさい**」と言われたとき、ヤイロがどう応答すべきかを、この名前も記されていない女性が示しました。女性が示した信仰を、ヤイロも持たなければなりません。周囲の状況や声にかまわず、イエスを信頼しなければなりません。これが私たちへのメッセージです。キリストにある兄弟姉妹の皆さん、今あなたがどんな状況に置かれていようとも、恐れなくて、ただ信じていてください。私たちの現在の状況は、やがて物理的には死に行き着きます。しかし、イエス・キリストにあって命と希望があります。ここにおられる皆さんの中で、イエス・キリストをあなたの主であり救い主として信じていない方がいらしたら、あなたは絶望的な状況にあります。聖書には、**ローマ人への手紙 3章 10～12節**において、私たちの状態が書かれています。<sup>10</sup> **次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。<sup>11</sup> 悟る者はいない。神を求める者はいない。<sup>12</sup> すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行う者はいない。だれ一人いない。」**私たちは誰もが、罪による絶望的な状況に囚われています。義人というのは完全に善である人という意味ですが、私たちのだれひとりとして、義人はいません。**ローマ人への手紙 3章 23節**に、**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**とあるとおりです。ヤイロの娘が物理的に死んでいたように、私たちも、自分の罪の中において、霊的に死んでいます。そして、このどうしようもない状況から解放されるための唯一の道は、イエス・キリストを信じることです。**ローマ人への手紙 3章**には、**21～22節**において、次のようにも書かれています。**しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。<sup>22</sup> すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。**女性の身体的な状態と、霊的な状態に解決をもたらしたものの、そして、私たちの霊的な状態にも解決をもたらすのはいずれも、イエス・キリストへの信仰です。義であるイエスが十字架の上で死なれ、私たちの救いを買取られたことで、ヤイロの娘が死からよみがえったように、私たちも、罪における死から、イエス・キリストにおける新しい命へとよみがえり、生きることができるようになるのです。お祈りしましょう。

## Mark 5:21-43 Two loved daughters

We have looked at a several healings in Mark before, but today we come to an interesting account of healing. It's a "two-fer", two for the price of one. There are really two stories of healing and faith embedded in one complete account of healing. In Mark 5:21-43, we have two stories embedded in one about two different daughters, who were both loved by their fathers, and both healed by their Lord. Remember, Jesus and the disciples had crossed the sea of galilee, ran into a storm, and seen Jesus calm the storm on the sea and then the storm in the life of the demon possessed man in Gadara. Now they get in a boat again and cross back towards Capernaum most likely. Let's begin reading at verse 21 of Mark 5.

**21 And when Jesus had crossed again in the boat to the other side, a great crowd gathered about him, and he was beside the sea. 22 Then came one of the rulers of the synagogue, Jairus by name, and seeing him, he fell at his feet 23 and implored him earnestly, saying, "My little daughter is at the point of death. Come and lay your hands on her, so that she may be made well and live."**24 And he went with him. Let's stop there.

The ruler of the synagogue was not a professional scribe or trained Rabbi, but a lay person who was entrusted with general oversight of the synagogue and ensuring the teaching was doctrinally correct. So, you could think of this man, Jairus, as a lay elder in the local Jewish context or perhaps a Deacon. He would have been very used to officiating at various events in the synagogue. But in this case, he is not in a position of strength and authority. Jairus is desperate because his daughter is dying. He doesn't care about protocols or keeping his composure. He is begging and pleading with this man who he has heard can heal people to come and heal his daughter before she dies. He believes, although as I think we will see, his faith is limited in certain ways. He believes, but it is not complete, because he seems to think that Jesus's power is limited by his location and his physical presence. Jesus needs to be able to put his hands on her so that she can be healed, at least that's what he thinks. His words will not do, only his physical presence. Jesus does not try to correct this man's misunderstanding of the extent of his power, rather he goes with him. And as we will see the man will get a firsthand faith-building demonstration of Jesus's power. Let's read starting at the last part of verse 24.

**And a great crowd followed him and thronged about him.25 And there was a woman who had had a discharge of blood for twelve years, 26 and who had suffered much under many physicians, and had spent all that she had, and was no better but rather grew worse. 27 She had heard the reports about Jesus and came up behind him in the crowd and touched his garment. 28 For she said, "If I touch even his garments, I will be made well." 29 And immediately the flow of blood dried up, and she felt in her body that she was healed of her disease. 30 And Jesus, perceiving in himself that power had gone out from him, immediately turned about in the crowd and said, "Who touched my garments?" 31 And his disciples said to him, "You see the crowd pressing around you, and yet you say, 'Who touched me?'" 32 And he looked around to see who had done it. 33 But the woman, knowing what had happened to her, came in fear and trembling and fell down before him and told him the whole truth. 34 And he said to her, "**Daughter**, your faith has made you well; go in peace, and be healed of your disease."** Notice how Jesus addresses this lady. He calls her "daughter." This lady had been rejected by everyone. I won't go into more detail, but to have an ongoing medically incurable flow of blood like this would have meant she was considered permanently unclean in the eyes of the Old Testament law. In fact, in verse 29 where it says, "**she was healed of her disease**," the word "disease" is not just implying physical suffering but shame involved in that sickness. Although this woman was clearly living with this disease, she was no better off than the daughter near death. She had lost everything. From verse 26, we see that doctors had taken all her money, and even caused

her a lot of pain, but brought her no relief. Like Jairus, she is not concerned about social custom or stigma when it came to receiving healing from Jesus. By the law, because of her condition, she could not touch anyone else, yet in faith she reached her hand out and touched the clothing Jesus wore so she could be healed.

Jesus knows he has been touched, and wants to see who did it. Of course this irritates the disciples, because he was surrounded by people...how could he possibly figure out which one person touched him? But Jesus wants a personal encounter with those he heals. The woman wanted something, but Jesus wanted to know someone. Showing the true sign of a disciple, she comes forward and humbles herself before this man who she now realizes is far more than a man, who now gives her far more than physical healing. Look at how Jesus responds. This lady is already healed. Physically, I believe that she was probably the healthiest she has ever been in her adult life thanks to Jesus. But still he says to her, **Daughter, your faith has made you well; go in peace, and be healed of your disease.** Of course what everyone saw on the outside as they heard Jesus's words was a physical healing, but what this woman experienced on the inside penetrated her soul and gave her spiritual healing. That word, "**well**", **your faith has made you well**... is the word that means saved or healed, but is used mostly in the New testament for spiritual healing from sin. This woman's faith in Jesus Christ made her spiritually well. She truly became a disciple. And as we have seen with other disciples in Mark, the sign of true discipleship is not just to be close to Jesus or even to hear what he says, but to act on what you hear. This woman "**heard**" in verse 27 about Jesus. And she came and touched him in response to that hearing. And that act of faith in him brought her eternal salvation. This is what it means to be a disciple of Jesus – to hear about him, and respond in faith that acts in obedience.

Now rather than just being a random story of healing inserted into the story of Jairus's daughter, she is actually the primary person in this event who becomes the model of faith for Jairus. He thought he needed Jesus to come to his house, touch his daughter and heal her, but he has just watched a woman who had no claim on him at all, never asked him for healing and yet believed in him and was healed completely. She tells the "**whole truth**" about her healing in front of Jairus and her testimony of healing and faith, which he heard and saw with his own eyes. Jairus needed this, because his faith is about to get tested to the max. Look at verse 35. **<sup>35</sup> While he was still speaking, there came from the ruler's house some who said, "Your daughter is dead. Why trouble the Teacher any further?"** **<sup>36</sup> But overhearing what they said, Jesus said to the ruler of the synagogue, "Do not fear, only believe."** Jesus's challenge to Jairus is the same challenge that comes to everyone who meets Jesus. Will you only believe in what human experience says is possible? Or will you believe in the God who makes all things possible? Your daughter is dead, Jairus...will you fear this negative turn of events or will you believe in the one you just saw heal a woman who reached out in faith and touched his garment? From this point until the end of the account, we do not hear Jairus's response, but from Jesus's actions we can see the man's faith in Jesus, as they continue to move to Jairus's house.

Let's continue in verse 37. **<sup>37</sup> And he allowed no one to follow him except Peter and James and John the brother of James. <sup>38</sup> They came to the house of the ruler of the synagogue, and Jesus<sup>l</sup> saw a commotion, people weeping and wailing loudly. <sup>39</sup> And when he had entered, he said to them, "Why are you making a commotion and weeping? The child is not dead but sleeping." <sup>40</sup> And they laughed at him. But he put them all outside and took the child's father and mother and those who were with him and went in where the child was. <sup>41</sup> Taking her by the hand he said to her, "Talitha cumi," which means, "Little girl, I say to you, arise."<sup>42</sup> And immediately the girl got up and began walking (for she was twelve**

years of age), and they were immediately overcome with amazement. <sup>43</sup>And he strictly charged them that no one should know this, and told them to give her something to eat.

This miracle would not be for everyone. Only his closest disciples, Peter, James, and John and the mother and father would experience this miracle first hand. And a true miracle it was. Don't think for a minute that Jesus's words saying that "the child is not dead but sleeping..." meant that she wasn't really dead. The reference to the commotion and weeping and wailing meant that there were already paid mourners involved in this death. They were a necessary part of Jewish death rituals at the time and would have only been called once death was certain. But in Jesus's eyes, he saw the true state of what could and will be, not what physically is. All the mourners could do was see only the physical reality and not the divine possibility that is present in any situation given the reality of God. And into that humanly impossible situation of death stepped the God of earth and Heaven who created that little girl, for whom the wind and waves had stopped and demons had fled, and a daughter's flow of blood had ceased. And now Jesus, fully that God and fully human man entered that little girl's room and said to her "talitha cumi..." In Aramaic, it literally means something like "little lamb, arise!" And with the touch of his hand and words from his lips, this girl got up from the dead, fully healed. There was no partial healing. It was complete. Every part of her worked, and she was able to get up and immediately eat food.

The people the Holy Spirit through Mark is leading us to focus on here in this even are on these two daughters. One who seems to be old, and one who is young, but both whom are women which places them as second class at best in the value that their society placed on people. That leads me to the first point of application I want to make from this event by speaking to the women in here today. What you need to take away from this account in the gospel of Mark is that you are not lesser to Jesus. Throughout history, and in many aspects of Japanese and other societies today, women have been treated as second class. Husbands have treated their wives as property rather than as Christ to his church. But to Jesus you are a precious daughter of God. Whether you are older like the lady who touched his garment or you are younger like Jairus's daughter, you are precious and loved by your Heavenly Father. For many of you women especially, the presence of a father may not bring up memories of love and care, but abuse, or distance, or anger. But God is the father that we all want and many never have. He loves you and cares about you, and wants to know you personally like the lady who touched his garment. He wants to speak to you with words of comfort like, "talitha cumi..."

But in addition to the focus on the daughters there is another point of application here in the response of the woman and of Jairus. That is the focus on faith. The message for us today is not if you have enough faith you will be healed. That is what many take away from these type of encounters that Jesus has. In fact, both of these daughters eventually died. Their physical healing was temporary. Now, other than being two women, there is one thing that connects both of these events. Both Jairus and the woman have one thing in common: both are experiencing desperate circumstances who have no hope apart from Jesus. And the only solution is faith in Jesus Christ. The woman who doesn't even have a name demonstrates for Jairus what his response should be when Jesus says to him, "Do not fear, just believe." He must have the faith that that woman demonstrated. He must trust Jesus in spite of everything the circumstances and the voices around him are saying. This is the message for us today. Brothers and Sisters in Christ, whatever you are going through today, do not fear, just believe. Even if the physical end of our present circumstances is death, there is life and hope in Jesus Christ. If you are here and have never trusted and believed in Jesus Christ as your Lord and Savior, then you are in a

desperate situation. In the Bible in the book of Romans chapter 3, God describes for us our condition in [Romans 3:10-12](#), 10 as it is written: “None is righteous, no, not one; 11 no one understands; no one seeks for God. 12 All have turned aside; together they have become worthless; no one does good, not even one.” All of us are trapped in a desperate situation of sin. Not one of us is perfectly good, which is what righteous means. As [Romans 3:23](#) says, for all have sinned and fall short of the glory of God. In our sin, we are as dead spiritually as Jairus’s daughter was physically. The only answer to our desperate situation is faith in Jesus Christ. As [Romans 3](#) also tells us in verses 21-22, [But now the righteousness of God has been manifested apart from the law, although the Law and the Prophets bear witness to it— 22 the righteousness of God through faith in Jesus Christ for all who believe](#). The answer for the lady’s physical condition and her spiritual condition is the same answer for our spiritual condition of sin – faith in Jesus Christ. His righteous death on the cross purchased our salvation, so that like Jairus’s daughter raised from the dead, we can be raised from being dead in sin to new life in Jesus Christ. Let’s pray.